

連載コラム

～ コーチングコミュニケーションが人を育てる ～ <第8回>

みなさま、こんにちは。

ドリームフィールドの阿部侑生です。

三寒四温といいますが、日差しが徐々に春めいて来ていますね。

寒さの中にも春を感じる今日この頃、何だか運動をしたくなります！！

運動といえば、先日、私はとても前向きで、世界一になることしか考えていない方にお会いしてきました。その方は、なんと全日本女子バレーボールチーム監督の眞鍋政義さんです。

今回は、選手とのかかわり方にコーチングを導入したり、詳細なデータ戦略を立てたりと、今までのバレーボール界の非常識を常識に変え続けている眞鍋監督が語った「裏話」を少しでもみなさんにお伝えしようと思います。

眞鍋監督は2012年のロンドン五輪で、日本の女子バレーボール界にとって28年ぶりとなるメダル獲得をもたらしました。

講演中の眞鍋監督は、「自分は世界一になるためならなんでも挑戦する」と何度もおっしゃっていましたが、ロンドンオリンピックでは、相手のデータ分析をかく乱するため、選手12人中10人の背番号を直前で変更して臨んだのです。

これはなかなか効果があったようです。そして本当は背番号だけでなく、相手をかく乱させるために選手の髪型も全員同じスタイルにするように選手に指示したそうですが、これは大反対を受けて取りやめたそうです（笑）

次回のリオデジャネイロオリンピックでは金メダルを獲るために、もう一度、選手に同じ髪型にしようと提案するそうですよ（笑）

私が眞鍋監督から聞いた話の中で特に印象に残っているのは、バレーボールの話ではなく、実は宮城県仙台市出身の卓球選手、福原愛さんのエピソードでした。

先ほども言いましたが、眞鍋監督は世界一になるためならなんでもする人なので、他のスポーツからもヒントをもらいたいと、ある時、福原愛さんの練習場を訪れた時のことでした。

そこで眞鍋監督が見た光景がすごかったんです！

愛さんの練習場の壁には前回の北京オリンピックで惜しくもメダルを逃した試合の、一番悔しかった時の写真がでかでかと貼られていた。

しかも（私もその写真を見せていただいたのですが）、写真はポスターのように大きく引き伸ばされ、何枚も貼られていました。

ちなみに北京オリンピックでの愛さんの成績は4位でした。
オリンピックでは、メダルがとれば天国、4位は地獄だそうです。
メダルの有無で、全然扱いが違うのです。

眞鍋監督がさらに驚いたのは、なんと、愛さんは練習前にいつも負けた試合の写真を見て、悔し涙をいっぱい流してから、練習を開始していたのです。

そうして愛さんは、次のロンドンオリンピックで見事、銀メダルを勝ち取ったのです。

一流のアスリートは悔しさをものすごいバネに変えられる人なんだと思いました。
そして悔しい思いや失敗は人を必ず成長させるのだと思いました。
失敗は悪いことに思えますが、見方を変えると成功のもとです！
悔しさを乗り越えると、その先には必ずいいことが待っています。
ピンチはチャンス。
諦めないで自分なりの「金メダル」を目指して、まずなにかをやってみましょう。

今日はどんなことにチャレンジしますか？私はたくさん失敗してみようと思います。
失敗はチャレンジしている証拠ですから（^ ^）。

★今月のポイント★

まずなにかをやってみよう！！

プロフィール

阿部 侑生（あべ ゆき）

ドリームフィールド代表。

文部科学省認可（財）生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ。

フリーアナウンサーとしてミヤギテレビ「OH！バンドス」（95～04）等、レギュラー出演、

その後、ビジネスコーチとして独立。

「コミュニケーションスキルの向上」「自発的な部下の育成」「子どものやる気を引き出すコーチング」

「人生を変えるスマイルパワーについて」等をテーマにしたコーチング研修、コミュニケーション研修講師として活動中。経営者、起業家へのパーソナルコーチングも行っている。